

## 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■ 事務事業の概要

## 2 ■ 事業実施の状況

2-1事業実施の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかかる環境把握	市民ニーズの認識
平成18年度	本年度から友好都市シェバトン市との間に職員交流事業を立ち上げ、両市の職員が交流し、お互いの行政の繋にする外交を開始した。また昨年度まで国際交流協会の事業であったシェバトン市の中高生の受け入れについて、事業の性質上市の事業として行うこととした。	近年急激に外国人人口が増加しており、日本人市民と外国籍市民との交流を促していくことは、非常に重要である。しかし、それにも増して外国籍市民は、日本の基本的な生活に対するルールや日本人の文化を知りたがっているので、単発的なイベントではなく、継続的に参加できるイベントを構	外国人からの訪問者を受け入れ交流したいと願う市民は、住宅事情などの要因あり比較的少ない。しかし、それ以外の交流方法によるものであれば、参加は容易である。多文化共生社会を目指す本市は今後も外国人と気軽に交流できる場提供すべきである。
平成19年度	友好都市職員の当市の訪問に際しては、庁舎内各課はもとより、市内各施設にも協力を依頼し交流をすることにより訪問した職員が日本を知るだけでなく、受け入れた職員や市民がシェバトン市を知ることができるよう配慮した。	"	"
平成20年度	シェバトン市からの本市訪問を円滑に行うため、国際交流協会、教育委員会、受け入れ学校との連絡を密にし、ホームステイでの受け入れ家庭の軽減策などについて協議した。	"	"
平成21年度	シェバトン市の中・高生の受け入れ家庭の経済的負担を軽減するため、22年度予算に県からの助成金を財源に謝礼を計上した。	社会環境については上記のとおりであるが、今年度の友好都市シェバトン市との中学生及び高校生の派遣受け入れ事業が、新型インフルエンザの関係で中止になったことは残念である。	"
平成22年度	シェバトン市の中・高生の受け入れ家庭の経済的負担を軽減するため、22年度予算に県からの助成金を財源に謝礼を計上した。来年度もこの予算を計上できたので受け入れ家庭の軽減につながる。昨年度は新型インフルエンザの関係で実施できなかっただけでなく、中学生及び高校生の派遣受け入れを今年度は行うことができた。しかし、今後も経済的な影響が懸念されが、受け入れ家庭は、徐々に増加傾向にある。	社会環境については上記のとおりであるが、今年度の友好都市シェバトン市との中学生及び高校生の派遣受け入れ事業が、新型インフルエンザの関係で中止になったことは残念である。	社会環境については上記のとおりであるが、今年度の友好都市シェバトン市との中学生及び高校生の派遣受け入れ事業が、新型インフルエンザの関係で中止になったことは残念である。
平成23年度	今年度は、東日本大震災の影響を受けシェバトン市の中・高生の来訪が取りやめになったことは非常に残念なことであったが、豊明市の中学生はシェバトン市を訪問し交流を深めた。また、豊明市職員を行政研修の目的で1名シェバトン市へ派遣両市の職員の交流が図れた。国際交流協会の開催する外国籍市民に対しての色々な事業にも多くの外国籍市民や日本人市民の参加があり交流を深めた。	今年度は、東日本大震災の影響を受けシェバトン市の中・高生の来訪が取りやめになったことは非常に残念なことであったが、豊明市の中学生はシェバトン市を訪問し交流を深めた。また、豊明市職員を行政研修の目的で1名シェバトン市へ派遣両市の職員の交流が図れた。国際交流協会の開催する外国籍市民に対しての色々な事業にも多くの外国籍市民や日本人市民の参加があり交流を深めた。	今年度は、東日本大震災の影響を受けシェバトン市の中・高生の来訪が取りやめになったことは非常に残念なことであったが、豊明市の中学生はシェバトン市を訪問し交流を深めた。また、豊明市職員を行政研修の目的で1名シェバトン市へ派遣両市の職員の交流が図れた。国際交流協会の開催する外国籍市民に対しての色々な事業にも多くの外国籍市民や日本人市民の参加があり交流を深めた。
平成24年度	シェバトン市から7月にシェバトン高校、9月にはワングヌイS Cの生徒引率者を迎え、市内の中学校を中心としてホームステイをしながら交流を行った。また、8月には豊明市の中学生がシェバトン市を訪問し交流を深めた。豊明市国際交流協会の開催する事業の周知もされており多くの外国籍市民、日本人市民の参加があった。	シェバトン市から7月にシェバトン高校、9月にはワングヌイS Cの生徒引率者を迎え、市内の中学校を中心としてホームステイをしながら交流を行った。また、8月には豊明市の中学生がシェバトン市を訪問し交流を深めた。豊明市国際交流協会の開催する事業の周知もされており多くの外国籍市民、日本人市民の参加があった。	シェバトン市から7月にシェバトン高校、9月にはワングヌイS Cの生徒引率者を迎え、市内の中学校を中心としてホームステイをしながら交流を行った。また、8月には豊明市の中学生がシェバトン市を訪問し交流を深めた。豊明市国際交流協会の開催する事業の周知もされており多くの外国籍市民、日本人市民の参加があった。
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標

業種別 2～3 成果指標に 係る活動実績とコ ストの推移（アウ トブット分析）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	a 活動実績 （単位）	b 直接事業費 （千円）	c 人件費 （千円）	d 合計コスト （千円）	e d/a （%）	f 参加者当たり （人）	g 参加者当たり （人）	h 参加者当たり （人）	i 参加者当たり （人）	j 参加者当たり （人）
	603（人）	654（人）	852（人）	667（人）	676（人）	667	701			
	878	958	818	960	1193	953	155			
	537	486	256	76	75	72	1,218			
	1,415	1,444	1,074	1,036	1,268	1,025	1,373			
単位コスト d/a （%）	参加者当たり 2.3	参加者当たり 2.2	参加者当たり 1.3	参加者当たり 1.6	参加者当たり 1.9	参加者当たり 1.6	参加者当たり 1.95	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明

a

：シェバトン高校との交流145人 ワンガヌイS Cとの交流187人 スポーツ交流250人 バスツアー60人 パーベキュー59人

ホストファミリーへの謝礼 31人×5,000円=155,000円

《来日時》20日×8H×2人×3,000円=960,000円

他のイベントは国際交流協会が主催のため広報掲載やチラシ配布など  $3 \times 2H \times 1人 \times 3,000円 = 18,000円$

2-4成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	指標対応実 績(人)	603	654	852	667	676	667	701		
後期目標値 に対する達 成度(%)	201.0	218.0	284.0	222.0	225.0	222.3	233.7			

### 3 ■事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	B	A	A	A	A	A	A		

- 4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
- B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
- C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
- D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
  - ①必要性(必要な事務事業であるか)
  - ②公共性(公が実施する意味があるか)
  - ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
  - ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
  - ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
  - ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	急激な外国籍市民人口に対応するため、海外外国人との交流に加え、市内在住外国人との交流機会を増加させる。		
平成19年度	"	維続的な交流事業の内容について考案する。	単発的なイベントに加え、継続的な交流事業を考案する。	毎年行っている海外からの青年受け入れに加え、在住外国籍市民との交流の場を設けるため、国際交流協会が行ったスポーツ交流会に協力した。
平成20年度	"	"	"	本年度は友好都市交流事業によりシェバトン市職員を約2週間受け入れた。その折にできる限り同市職員と本市職員の交流を図れるようにスケジュールを配慮し、お互いの行政スタイルの違いを発見・理解できるようにした。
平成21年度	"	"	"	毎年行っている餅つき大会やスポーツ大会バーべキュー大会などが根付いてきた。こうしたイベントにより多くの参加者が訪れるよう、PR・実施内容の検討を行った。
平成22年度	リーマンショック以来、外国人籍市民の人口は減少しているが、市内在住外国人の方はまだ多く生活している。今後も、外国人籍市民との交流機会を増加させると共に海外外国人の交流も増加させる。また、継続的な交流事業の内容についても考案する。毎年行っている海外からの青年受け入れに加え、在住外国籍市民との交流の場を設けるため、国際交流協会が行ったスポーツ交流会やその他イベントに協力した。			数年間休止していた国際交流会を開催し、本市に居住している外国人の協力を得て、展示や舞台芸能などの発表を行い、日本人市民との交流を盛大に行った。
平成23年度	東日本大震災の影響により外国人籍市民の人口は一時的に減少したが、まだ、多くの外国人の方が生活している。今後も、外国人籍市民との交流機会を増加させると共に海外外国人の交流も増加させる。また、継続的な交流事業の内容についても考案する。毎年行っている海外からの青年受け入れに加え、在住外国籍市民との交流の場を設けるため、国際交流協会が行ったスポーツ交流会やその他イベントに協力した。			
平成24年度	シェバトン市から2校の受け入れ事業があり、ホストファミリーの募集をしてもなかなか集まらず国際交流協会に協力をしてもらい依頼するなど、今後も受け入れ事業はホームステイ先の決定に苦労すると予想される。外国籍市民にも交流イベントが定着してきているよう参加者は多く増加傾向にある。今後は外国人との交流に関わりがなかった日本人市民を参加させるようなイベントを企画する必要がある。			
平成25年度 平成26年度 平成27年度				

### 4 ■事務事業の総合評価結果

4-1総合評価の 結果	結果	審査会による改善方向の指示	
		平成18年度	平成19年度
	A	外国人市民と日本人市民との交流の機会拡大については上位の目標とし、当面は国際交流協会主催の交流イベントを中心に進めること。	
	A	継続して事業を進めること。	